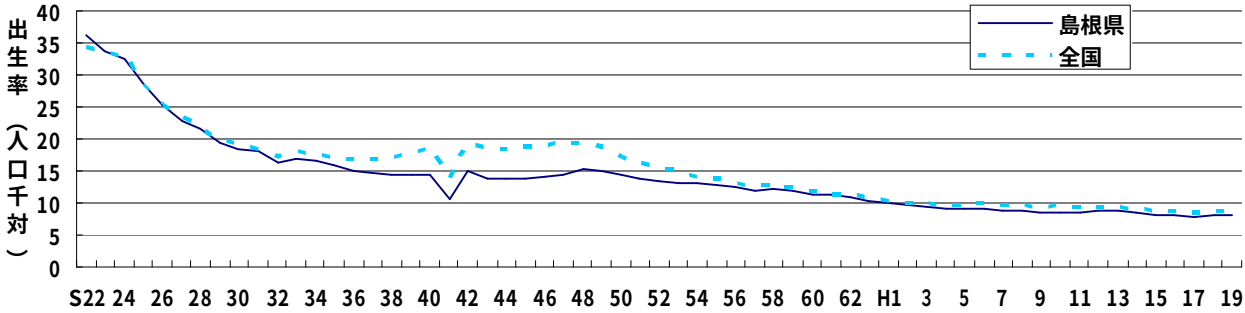
2　出生

（1）出生数・出生率

平成 19 年の出生数は 5,914 人で、前年の 6,011 人から 97 人減少し、出生率（人口千対）は 8.1 で、前年の 8.2 を 0.1 下回った。昭和 22 年～昭和 24 年（第一次ベビーブーム）の出生率は 35.0 前後と高かったが、昭和 25 年から急激に下降していった。その後一時回復するものの、昭和 41 年の「ひのえうま」前後の特殊な動きを除いて緩やかな減少傾向が続いた。昭和 46 年からの第２次ベビーブームでわずかに回復し、その後は減少傾向が続いている。平成 18 年は 5 年ぶりに増加したが、平成 19 年は再び減少した（図１）。

図１　出生率の年次推移



出生数を母の年齢(5 歳階級)別にみると、35 歳以上の階級ではいずれも前年から増加し、34 歳以下の階級ではいずれも減少した。（表２）

表２　母の年齢（５歳階級）別にみた出生数

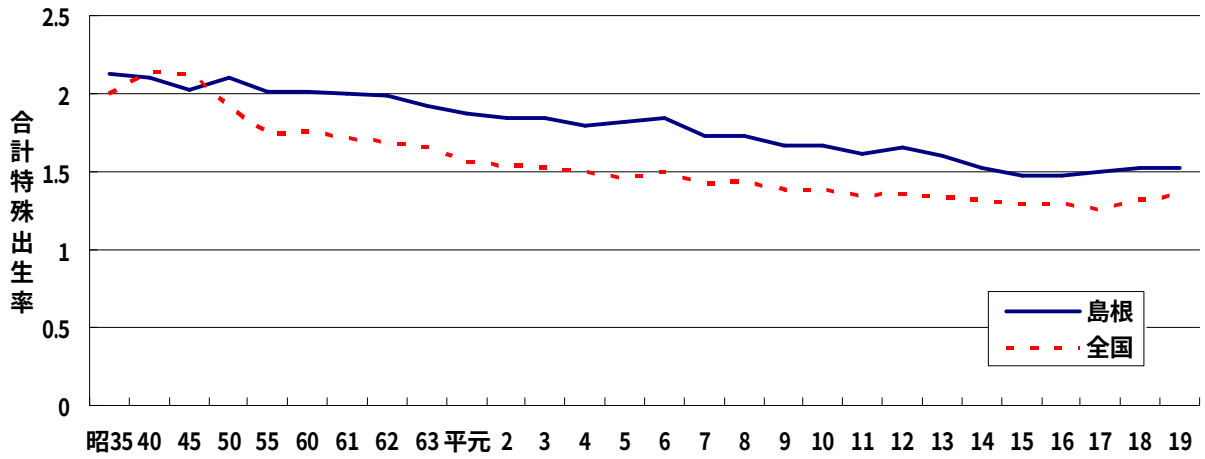
母の年齢	出生数				対前年増減		
	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	17 年－16 年	18 年－17 年	19 年－18 年
総数	6,104	5,697	6,011	5,914	△ 407	314	△ 97
～14 歳	-	-	-	-	-	-	-
15～19	94	104	95	70	10	△ 9	△ 25
20～24	894	780	796	791	△ 114	16	△ 5
25～29	2,204	2,006	2,015	1,971	△ 198	9	△ 44
30～34	2,066	1,987	2,223	2,101	△ 79	236	△ 122
35～39	732	721	766	852	△ 11	45	86
40～44	112	96	114	125	△ 16	18	11
45～49	2	3	2	4	1	△ 1	2
50 歳以上	-	-	-	-	-	-	-

（２）合計特殊出生率

平成 19 年の合計特殊出生率は 1.53 であった。全国と比較すると、昭和 50 年以降一貫して島根県のほうが上回っており、順位は全国 5 位である。(図２)

なお、合計特殊出生率の算定の基礎となる年齢 5 歳階級別女子人口については、平成 12 年及び平成 17 年は日本人人口（国勢調査）、平成 13 年から平成 16 年、平成 18 年及び平成 19 年は総人口（総務省推計）であるため、単純にそのまま比較することはできない。

図２　合計特殊出生率の年次推移



年齢（5 歳階級）別の昭和 45 年以降の推移を見ると、年により多少の増減があるものの、概ね 20 歳代では低下傾向、30 歳代では上昇傾向にあり、10 代及び 40 代ではわずかに上昇傾向となっている。（図３）

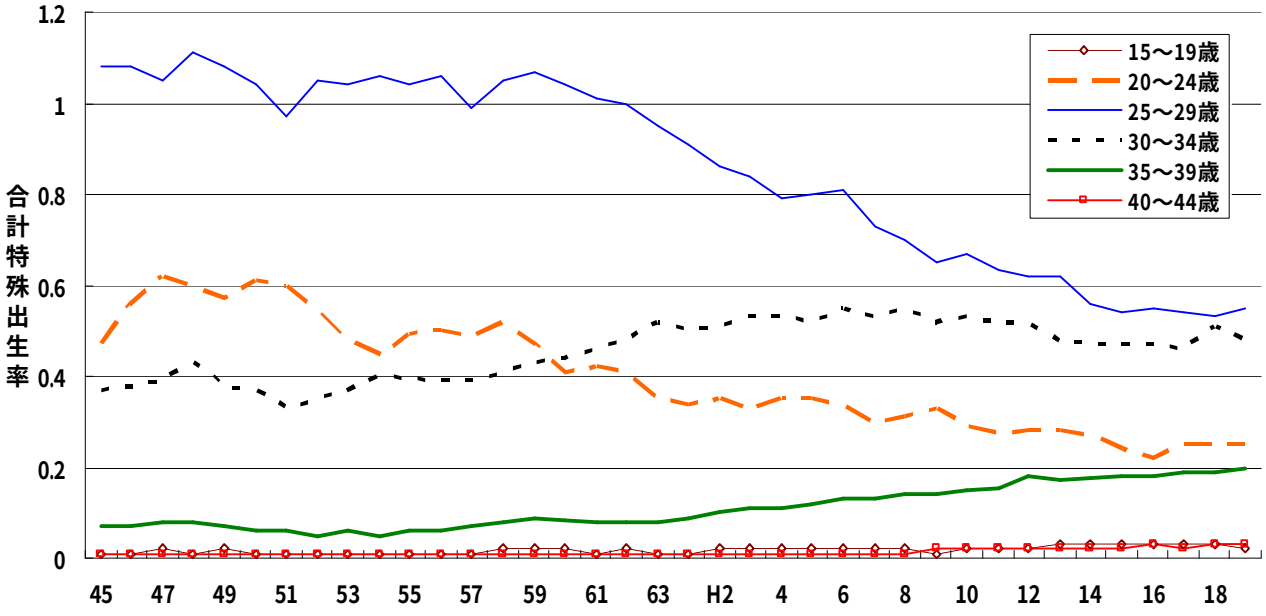



図3　合計特殊出生率の年次推移 (年齢階級別内訳)